

研究会のご案内

第 56 回 全国国語教育研究大会

開催日 平成 23 年 2 月 4 日(金)・2 月 5 日(土)

会 場 京都市立二の丸北小学校・京都市総合教育センター

テーマ 「言語活動を通して、豊かに学ぶ子」

内 容 (1 日目) 基調提案・オリエンテーション

講 話：京都市教育委員会指導主事 橋本真千子氏

提案授業 (1～6 年各 1 学級)

研究協議 (1～6 学年部会)

(2 日目) 講演Ⅰ：文部科学省教科調査官 水戸部 修治 氏

講演Ⅱ：詩人 アーサー・ビナード氏

会 費 3,500 円

連絡先 京都市立二の丸北小学校内 全国国語教育研究大会本部

〒 612-8141 京都府京都市伏見区向島二ノ丸町 300

TEL：075-622-4684 FAX：075-622-4623

教科書編集部便り

教科書や授業で扱うのは、パブリック・スピーキング、つまり改まった場での「話す・聞く」「話し合う」が主です。特に中学年以上では、グループや学級での活動が多くなります。裁判員制度のニュースに接するにつけても、そのような「話すこと・聞くこと」の力をしっかりつけることは、万人に求められているものだと思います。

いっぽうで、どのように改まろうが、人数が増えようが、「言葉の力」という意味で考えるなら、一対一のやりとり、しかも対面でのやりとりが基本になると考えられます。日常的な対面のやりとりで、とすると誤解が生じたり、人間関係がぎくしゃくしたりすることは、大人の世界でも同じです。言葉には「力」があり、それは正邪両方に働くのです。

そのような考えから、来年度から使われる新教科書では「アサーション(※)」という概念を導入しました。「コミュニケーションコラム」とよんでいる教材で試みているのがそれです。「うれしいことば」(2

年)、「きちんとつたえるために」(3 年)、「話す言葉は同じでも」(4 年)、「話し合うために大切な言葉」(5 年)、「伝えにくいことを伝える」(6 年)。ふと、立ち止まって、人間関係を豊かにする言葉の力や働きについて、児童とともに考えていただけたらと願っています。

※アサーション：相手の気持ちに配慮しながら、自分の意見や気持ちを表現すること。

【常用漢字について】

このたび改定された常用漢字について、その学校教育上での取扱いが決められました(「常用漢字改定に伴う学校教育上の対応に関する専門家会議」。小学校に関連するものは以下のとおりです。

- ①学校では 24 年度から指導を行う。
- ②追加された漢字は全て中学校配当とする。
- ③追加音訓の扱いについては、今年度内にとりまとめられる。→小学校での扱いになるものは、改めてお知らせします。